2026年度　第2回5月期定例番組審議会議事録

１．開催の日時　　2026年5月13日（水）

２．開催の場所　　栃木放送本社会議室
参加できない委員には資料を送付して番組をお聞きいただき、意見・感想を返信してもらう形式で開催。

３．委員の出席　　委員総数9名
返信総数2名
出席総数7名

出席委員名

委員長	増田仲夫
委員	竹内明子
委員	若井明香
委員	高橋久夫
委員	小川俊彦
委員	井出智子
委員	北條俊明
委員	白石智子
委員	桐生典夫

４．議　　題
（1）「開倫塾の時間　～林明夫の歩きながら考える～」
放送日　毎週土曜日　午前9：15～

（2）その他

５．議事内容
（1）「開倫塾の時間　～林明夫の歩きながら考える～」 について
番組視聴：放送した番組を各委員に送付して試聴して頂きました。

番組概要
栃木県・群馬県・茨城県・東京都に計92校を展開し、足利市に本社を置く進学塾「開倫塾」塾長であり代表取締役の林明夫氏が、受験生、児童・生徒・学生はもちろん「社会人

を含め効果の上がる学習方法」を１人で話す番組です。
１９８６年４月、当時あった両毛支社（足利市）の生放送番組の一角としてスタートし、録音番組に形を変え継続しています。
今年＝２０２６年３月で放送４０年目に入りました。

放送日時
毎週土曜日　午前９時１５分～（１０分間の録音番組）
スポンサー：開倫塾

試聴内容　２０２６年３月放送分から
放送日　　テーマ
３月　７日　・放送開始から４０年
・社会に出てからも役立つ「効果の上がる学習方法」を考える
３月１４日　・県立高校入試終わる
・二宮尊徳の勉強会に参加
３月２１日　・開倫塾日本語学校卒業式
・学校教科書を手にしたその日から教科書の予習を
３月２８日　・志願倍率が１倍を下回る学校を第一志望校とする受験生の皆様へ

※放送内容は、開倫塾のホームページ内に文字で掲載され、閲覧できます（開倫塾スタッフの書き起こし、または林塾長使用の放送用原稿を pdf データでアップロード)。

番組提供
開倫塾

出演
林　明夫氏

各委員からは
〇高校生の頃からうっすらと記憶にありますが、改めて聞くと、独特な早口でパパパッとお話しになる様子は、昔いた面白い先生を思い出させます。決して模範的な喋り方ではありませんが、これはこれで味があり、大人が聞く分にはエンターテインメントとして楽しめます。
一方で、受験生などの当事者からお便りが届いているのかが気になります。もし来ているのであれば、たまにその問いに答える時間があるとリスナーとしては嬉しいです。今の流れるように一方的に喋るスタイルが受けている面もあるとは思いますが、お便りへの回答も織り交ぜていくことで、より番組に深みが出ます。

〇非常に早口な上、栃木独特のニュアンスもあって、正直なところ私には少し聞き取りにくかったです。対象が小中高生から社会人までと幅広いため、話の焦点がやや絞りにくい面もありますが、勉強の進め方などは納得できる部分が多く、受験生の親御さんには良いアドバイスになります。
ただ、今の子供たちにこのスタイルが通用するのかという点では疑問も残ります。それでも、自分の信念に基づいた教育論や受験対策を 40 年もの間、一貫して発信し続けていることは、並大抵のことではなく非常に立派です。個々の子に合うかどうかは別として、確固たる信念を持って放送に臨んでいる姿勢は、一つの形として評価できます。

〇林先生とは 20 数年前、私が教育センターにいた頃に講師をお願いした縁があります。
当時、30 代を相手に 2 時間ほど熱心に話していただきましたが、あの情熱的な話し方は今も全く変わっていません。忙しい中で徹意してレジュメを作ってきてくださるような当時の熱い姿勢が、今もそのまま続いています。
番組では、辞書を引くことや予習の大切さといった勉強の基本を説いています。二宮尊徳の教えを引き合いに「積小為大」という言葉を伝えている点も、非常に良いです。ただ、どうしても塾講師らしい語り口なので、若干一方的な印象はあります。リスナーからの質問に答えるようなやり取りも取り入れていくと、番組としての幅がさらに広がると思います。

〇40 年続く番組ですが、時代が変わる中で今の子供たちのニーズに合った内容になっているのか疑問です。二宮尊徳の教えなどは現代の子には伝わりにくいですし、私自身も聞いていて共感しづらい部分がありました。早口で一方的な語りも、内容は理解できても心に響いてきません。
高校入試の倍率に関する回には納得感がありましたが、番組全体が惰性で続いている印象を拭えません。「全ての時間を勉強に充てろ」といった極端な助言も、今の時代に即しているとは思えません。長年の実績に基づいた確信はあるのでしょうが、伝え方や内容を現代に合わせてカスタマイズしていく姿勢が必要なのではないでしょうか。

〇10 分間の番組を塾長一人の語りだけで 40 年も続けている事実に、まずは驚かされます。話題を毎回ご自身で考えているとのことですが、今後もリスナーに新しい刺激を与え続けられるのかという懸念はあります。また、短い枠で全てを伝えようとするためか、早口で聞き取りにくい箇所が見受けられます。
テーマは学習方法や自己啓発といった硬めの内容ですが、社会人が聞いても多くの気づきがあります。具体的な指導内容は学生や保護者の参考になる一方で、小中学生には少し難解です。メモを取ることに集中しすぎて思考が止まってしまう危うさも感じますが、知識をどんどん吸収すべき受験生にとっては、今のスタイルが適しているのでしょう。

〇林さんは一見すると強面で少しおっかない印象を受けますが、実際に話してみると実に

かっこいい男です。かつては塾経営者というものに偏見があり警戒もしていましたが、彼の勉強熱心な姿勢や的確な指導、仕事への真面目さには敬意を抱いています。めったにメモをしない私が、今回は思わず書き留めてしまうほど、もっと早くに聞いておきたかったと思わせる内容でした。
ただ、情報をそのまま受け取って考える暇がない今の世の中において、ノートを取ることに必死になり自分の頭で考えなくなるのは危険です。そうした懸念はありますが、わずか10分間でこれほど中身が詰まっているのは大したものです。この歳になっても続きが聞きたいと感じる、非常に良い番組でした。

〇放送開始から40年、まさに継続は力です。多くの方に支持され続けてきた林塾長のお話には、実に安定感があります。勉強の内容そのものより方法に悩む学生にとって大きな気づきになりますし、放送時間やエリアを考えれば、大学生や社会人、親世代や教育者が聞いても十分に参考になる内容です。紹介されている学習方法は昭和からの懐かしいスタイルで、AI時代においても変わらぬものがあるという安心感があります。ただ、現代の実態に即しているのか疑問に残る点もあり、補足の説明が必要です。番組構成についても、アナウンサーとの掛け合いやリスナーとのやり取りがあればより魅力的になります。しかし、限られた時間で塾長が思いを話すこと自体に意味がある番組ですから、この構成のままで問題ありません。

〇一連の放送を通じて、「学習時間の確保」と「学習方法の工夫」を両立させる大切さや、教科書を中心とした音読・書き取り・辞書活用といった基本に忠実な学習方法が繰り返し紹介されており、受験生のみならず社会人にも参考になる内容です。「学んだことを自分の言葉で表現できてこそ学習効果がある」という考え方や、ノートを保存して学び直す提案には、学び続ける姿勢の重要性を改めて認識させられます。私の学生時代と比べても学習方法に大きな変化がないことには驚きましたが、環境が激変する現代でもこうした積み重ねが大切にされている点に、学びの本質を感じます。一方で、デジタルツールが普及する中で今の子どもたちがどう受け止めるかという関心もあり、現代的な視点も加わるとより親しみやすくなります。長年の継続は地域に根ざした学びの機会として大変意義深いものです。ただ、内容が充実している分、情報量が多く早口に感じる箇所もありました。もう少しゆとりのある話し方でポイントを整理すると、より多くの方へ確実に伝わります。

〇40年の継続は素晴らしいですが、話し方が「はあはあ」と息苦しく、聞いている側も身体的な辛さを感じてしまいます。勢いが強すぎてこちらの咀嚼が追いつかず、考える隙を与えない一方的な印象が拭えません。語られる学習法にしても、それが不変の本質なのか、単にアップデートされていないだけなのかが、今のままでは判断しづらいところがあります。塾の経営自体は現代的ですから、番組でもアナウンサーとの対話形式を取り入れ、デジタル学習の是非といった最新の教育事情を絡めるのが得策です。放送局側も構成にしっかり関わり、塾長の経験に基づいた根拠のある話をうまく引き出すことで、リスナーを置

いてきぼりにしない、今の時代に呼応した展開が生まれるのではないでしょうか。

当社としては、これらの意見をもとに、今後の番組制作や広報に取り組んでいきたい旨を、各委員に伝えた。

（２）その他

６．審議内容
上記の通りであり、特に審議決定し、答申すべきものはなかった。

７，番組審議会の意見の概要の公表
当社の番組「栃木放送からのお知らせ」（2026 年 6 月 21 日）
当社のホームページに掲載（2026 年 6 月 22 日）
当社事務局に議事録備え置き（2026 年 6 月 22 日～）

以上